

# 総務文教委員会 会議録

開催年月日	令和2年11月11日(水)	場 所	教育委員会会議室
案 件	・調査第3号「幼小連携・接続について」(担当者からの聴き取り)		
出席委員	佐藤委員長、関野副委員長、小林委員、今委員、天日委員、宮田委員		
欠席委員	—	事務局	大津
オブザーバー	—	傍聴者	—
説明員	亀渕教育部長、佐藤学校教育課長、桑折虹いろ保育所所長、幼小連携・接続推進コーディネーター小瀬教諭		
開会時刻	9時55分	実会議時間	2時間00分
		休憩時間	0時間07分
閉会時刻	12時02分	延会議時間	2時間07分
次回日程	11月19日議員協議会終了後		
要 点 記 録	<p>&lt;概 要&gt;</p> <p><b>○調査第3号「幼小連携・接続について」</b></p> <p>◇調査の冒頭、教育部長より挨拶にあわせて3点に関する報告を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野市内の高等学校のあり方について</li> <li>・来年度からの布部小学校の特認校への移行について</li> <li>・へき地保育所のあり方について</li> </ul> <p>◇幼小連携・接続推進コーディネーターより、事前に送付した設問に基づき、回答を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業当初に見えていた課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 幼小連携とは何を連携するか、周知と理解。</li> <li>→ 保育所・幼稚園相互の交流が少なく、交流となればと考えた。</li> <li>→ 幼稚園と小学校における学びの交流が少なく、機会が増えればと活動した。</li> <li>→ スタートカリキュラムの作成。</li> </ul> </li> <li>これら、4点については、啓発普及や協議会の設立、交流機会の創設、カリキュラム作成用のハンドブックを作成中。</li> <li>・現場の声の変化は → 「幼保小だより」を月1回程度発行、市内全小学校と幼児教育施設へ配布し、読んでいるとの声を伺うことが多くなった。</li> <li>・コーディネーター以外の負担増は → 他の教員の負担は増えていない。増えないように工夫している。</li> <li>・細かな情報交換の状況は → 先の「幼保小だより」と巡回時のやり取りで行っている。</li> <li>・合同引き継ぎ会後を踏まえた検討・改善 → 検討することはできている。改善も今回1回限りではなく、毎年検討と改善を加えていくもので、教育委員会のリーダーシップで可能と考えている。</li> <li>・事業を推進して見えた新たな課題は → 2年間継続してきたが、今後は各学校で継続するかが課題であり、各学校の教育計画に盛り込むことを考えている。</li> <li>・モデル事業の期限を年度末に控え、当初の目標は達成できるか <ul style="list-style-type: none"> <li>→ スタートカリキュラムハンドブックは完成間近である。</li> <li>→ 引継ぎの拡充は、これからも継続して取り組むべきものとする。</li> </ul> </li> <li>・市全体としての取り組みを推進できる状況となるか → 現在は教育委員会と連携を図り、継続方法について協議中。他のモデル市町村4町村との情報交換を通じた中でも継続は一番の課題となっている。</li> <li>・指導要録の内容と学級編成や学校経営にいかすポイントは → 要録を読み解くことは当然であるが、合同引き継ぎ会を通じ生の声で引き継ぐことが1番と考えてお</li> </ul>		

り、これらの声をいかし学級編成や学校経営を行っている。また、育ちの再確認として要録を活用している状況である。

・子供たちの感想や感じていることは → 幼小交流を実施した学校においては、小学校入学後に「会ったことがある」が多く聞かれた。また、各学校に幼稚園や保育園の「園だより」を掲示しているが、子どもたちが1番興味をもって読んでいることがみられ、子ども自身が大きくなったと振り返るきっかけとなるとともに、小学校で頑張る原動力となっていると思われる。

◇虹いろ保育所長より、事前を送付した設問に基づき、回答を受ける

事前にご依頼のあった、指導要録の様式は、別紙のとおり配布。

・事業推進に苦勞した点は → 指針の改訂が10年ぶり、育ちの部分を読み取り、年長児は「育みたい10の姿」を意識した保育環境と小学校への引き継ぎが明記され、行うに当たっては試行錯誤を繰り返した。また、協議会の立ち上げにより話し合いの場が設けられてよかったと感じている。

・様式について → 保育所の要録の様式は、厚生労働省から出されたもので幼稚園とは異なる。

・子どもの評価方法について → 基本的に担任が作成するが、保育所長や係長がケース会議で意見交換を行い評価している。

・職員の対応(意識改革)は → 10の姿を意識して、遊びの提供をするなど、保育の質を図っていくことは大切であり、勉強する機会が必要と考えている。

・人的・金銭的負担について → 生じていない。

・事業推進に当たって期待する点 → 学校と幼児教育施設の交流の場の創出など、どの程度の交流を図っていくかなど、連携をとりながら近寄っていく必要があると感じている。

・子どもたちに感想 → 園児は交流した小学生に対し、情緒的な表現を上手にしているとともに、感じていると思われる。小学校の先生と顔見知りとなるのは安心感に役立っていると思われる。

◇回答後、各説明員と質疑応答及び意見交換を実施。

以上、委員会会議録について富良野市議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

委員長 佐藤 秀 靖